

娼妓ニ於ケル「ツベルクリン」皮内反應ノ 陽性轉化ト發病トノ關係

娼妓ノ結核ニ關スル研究(第2報)

(昭和14年12月20日受領)

警視廳醫務課長 加藤 寛二郎

警視廳衛生技師 小川 朝吉

第1章 緒言

余等ハ警視廳管下ニ於ケル娼妓ニ就キ「ツベルクリン」皮内反應ヲ施行シ、結核感染狀況ヲ明カニシ、ソノ結果ヲ第1報ニ報告シタ。該報告ニ述ベタル如ク警視廳管下ニ於テ新タニ登録セラレタル娼妓ニ於テハ847名調査中陽性者ハ51%デアリ、一般娼妓中就業後1ケ年未滿ノ者ニアリテハ、調査人員218名中陽性者ハ45.4%ニシテ、即チ娼妓就業當初ニ於ケル陽性度ハ、一般都會地ニ於ケル當該年齢陽性率ニ比シ、著シク低率ニ位スルコトヲ示シ、他面就業後1、2年ニ於ケル陽性者ノ増加ガ顯著ナルニ反シ、3年以上ノ者ニアリテハ増加ノ割合ハ減

ジ、同様ナル關係ガ年齢別陽性率ニ於テモ觀察スルヲ得タ。

之等ノ事實ハ結核汚染度ノ比較的少ナキ地方ヨリ始メテ上京シタル者カ、都會ニ於テ娼妓ノ如キ甚ダ多數ノ客ト接觸ヲ持ツ業態ニ從事シ、急激ニ病毒ノ感染ヲ惹起シタモノト考ヘラレ、又之等感染者中ヨリ多數ノ發病者ヲ出シ、之等ノ發病者ハ體力的ニ業態的ニ淘汰セラルルコトヨリ來ル現象ト考ヘラル、ヲ以テ、此ノ間ノ事情ヲ明カナラシメンガ爲メニ、且ツハ一般青年婦女子ニ於ケル結核反應陽性轉化ト發病トノ關係ヲ併セ考察センガ爲メニ、本研究ヲ進メタ。

第2章 研究材料並ニ研究方法

1. 研究材料並ニ研究方法

警視廳管下ニ於ケル吉原、洲崎、新宿ノ各遊廓ニ昭和12年7月乃至昭和13年2月ノ間新タニ登録セラレタル娼妓中、就業後1ケ月以内ニ施行セラレタ結核感染検査ノ結果陰性ナリシモノ326名ニ就キ更ニ半年後ニ於テ結核感染検査ヲ行ヒ、半年間ノ陽性轉化者ヲ檢出シ、之等陽性轉化者ニ就テハ打診、聽診上ノ他覺的診斷並ニ赤血球沈降速度測定及ビX線寫眞撮影ヲ行ヒ發病ヲ檢索シタ、而シテ發病ヲ認メザリシ陽性轉

化者ニ對シテハ、毎半年ニ於テ同様ノ診斷、検査ヲ行ヒ發病狀況ヲ觀察シ、發病者ニ對シテハ同ジク毎半年ニ於テ發病後ノ經過ヲ觀察シタ。

尙最初ノ半年ニ於テ陽性轉化セザリシ者ニ就テハ次ノ半年ニ於テ陽性轉化並ニ發病ヲ檢シ尙陽性轉化セザリシ者ニ就テハ第3ノ半年ニ於テ同様ノ手續キヲ繰返シタ。

2. 結核感染検査竝ニ判定

結核感染検査ノ方式ハ Manteoux 氏法ニ依ル、但シ「ツベルクリン」ハ 2000 倍稀釋液ヲ使用シタ。
「ツベルクリン」ハ本邦傳染病研究所製舊「ツベルクリン」2000 倍稀釋液ヲ使用シ、 $\frac{1}{4}$ 注射針ヲ用ヒテ 0.1ccヲ上膊屈面中央部皮内ニ注射シタ。

注射後 24 時間乃至 48 時間ノ間ニ反應ヲ檢シ判定ノ標準ハ

陽性	發赤長徑	8 mm 以上
疑性	發赤長徑	7—4 mm
陰性	發赤長徑	3 mm 以下

トシタ

3. X線装置

X線装置ノ精巧ハ最モ望マシキモ多數出張撮影ノ必要上日本醫療電機製ギバ C 型携帯用レント

ゲン装置ヲ使用シタ。

4. 赤血球沈降速度判定

赤血球沈降速度測定ハウエスターグレン氏法ニ依リ、第 1 時間及ヒ第 2 時間ニ於ケル降下ヲ耗

數ニ依ツテ示シタ。

第 3 章 陽性轉化ニ就テ

1. 就業後半年以内ニ於ケル陽性轉化

第 2 章ニ於テ述ベタル新登録娼妓ノ就業後 1 ケ月以内ニ施行セル「ツベルクリン」皮内反應陰性ナリシモノニ就キ、就業後半年(第 1 回検査ヨリ半年)ニ於テ再ビ「ツベルクリン」皮内反應ヲ施行セル結果ハ第 1 表ノ如クデアル。

第 1 表 就業後半年以内ニ於ケル陽性轉化

遊廓名	調査件數	陽性轉化數	疑性數	陰性數	陽性轉化率
吉原	108	26	1	81	24.1%
洲崎	171	51	5	115	29.8%
新宿	47	15	2	30	31.9%
計	326	92	8	226	28.2%

2. 就業後半年乃至 1 ケ年以内ニ於ケル陽性轉化

就業後半年以内ニ於テ陽性轉化セザリシモノ(疑性ヲ含ム) 234 名中 207 名(他ハ事故ニ依リ検査不能)ニ就キ更ニ半年後(第 1 回検査後 1 ケ年)「ツベルクリン」皮内反應ヲ施行セル結果ハ第 2 表ノ如クデアル。

第 2 表 就業後半年乃至 1 年ニ於ケル陽性轉化

遊廓名	調査件數	陽性轉化數	疑性數	陰性數	陽性轉化率
吉原	72	22	4	46	30.6%
洲崎	102	33	7	62	32.4%
新宿	27	8	1	18	29.6%
計	201	63	12	126	31.3%

(備考) 事故ニ依リ検査不能ノモノ 33 名

3. 就業後 1 年乃至 1 年半以内ニ於ケル陽性轉化

1、2 節ニ於テ陽性ニ轉化セザリシモノ(疑性ヲ含ム)ニ就キ更ニ半年後(第 1 回検査後 1 ケ年半)ニ於テ「ツベルクリン」皮内反應ヲ施行セル結果ハ第 3 表ノ如クデアル。

第 3 表 就業後 1 年乃至 1 年半ニ於ケル陽性轉化

遊廓名	調査件數	陽性轉化數	疑性數	陰性數	陽性轉化率
吉原	32	6	1	25	18.8%
洲崎	69	15	1	53	21.7%
新宿	13	1	0	12	7.7%
計	114	22	2	90	19.3%

(備考) 事故ニ依ル検査不能 2 名
検査時期ニ到達セザル未検査者 22 名

4. 就業後 1 ケ年以内ニ於ケル陽性轉化

以上一依ツテ明カナルガ如ク、就業當初ノ半年以内ニ於テ陽性ニ轉化セルモノハ調査人員 326 名中 92 名即チ 28.2%ニ及ビ次ノ半年(第 1 回検査後 1 年)ニ於ケル陽性轉化ハ調査人員 201 名中 63 名ニシテ陽性轉化率ハ 31.3%ニ及ンダ即チ半年間ニ於ケル陽性轉化ハ大略 30%平均ニシテ 1 ケ年ヲ通算スレバ本感染娼妓ノ約半数ガ陽性ニ轉化シタコトガ明瞭トナツタ、試ミ 1、2 表ノ陽性轉化數ヲ加算シ 1 ケ年ノ陽性轉

化率ヲ示セバ第 4 表ノ如クデアル。

第 4 表 就業後 1 年ニ於ケル陽性轉化

遊廓名	調査件數	陽性轉化數	陽性轉化率
吉原	108	48	44.4%
洲崎	171	84	49.1%
新宿	47	23	48.9%
計	326	155	47.5%

(備考) 事故ニ依ル検査不能 33 名

第 4 章 陽性轉化者ノ發病

1. 就業後半ケ年以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病狀況

第 3 章 1 節ニ述ベタル陽性轉化者 92 名ニ就テ陽性轉化發見ト同時ニ、他覺的診斷、赤血球沈降速度測定、X 線寫眞撮影等ノ綜合診斷ニ依リ發病ヲ發見シタルモノヲ擧ゲレバ第 5 表ガ得ラレル。

之等ノ發病者中ニハ自覺的症狀並ニ聽診上又ハ打診上ノ他覺的所見ヲ伴ハナイモノモ多イ、之等ノモノハ X 線検査ニ依ツテノミ病變ヲ發見スルコトガ出來タ、而シテ X 線検査ニ依リ病變ヲ發見セザリシモノニシテ自覺症狀又ハ他覺的所

見ヲ伴ツタモノハ皆無デアツタ、故ニ本論文ニ述ベル發病ト云フ意味ハ必ズシモ自覺症狀又ハ他覺的所見ヲ伴フモノデナク、X 線診斷上醫師ノ監督ヲ受クベキ性状ノ病變ヲ認メタ場合ヲ云フノデアル。

尙第 5 表中ニハ陽性轉化發見ト同時ニ發病ヲ認メザリシモノニ就キ、更ニ半年後若クハ 1 年後ニ於テ同様發病ヲ檢シ、ソノ發見シタル發病者ヲモ併セ收録シタ。

第 5 表 就業後半ケ年以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病

遊廓名	調査件數	就業後半ケ年ニ於ケル陽性轉化ト同時ニ發見セル陽性轉化數		陽性轉化後半年ニ於ケル發病數		陽性轉化後 1 年ニ於ケル發病數		發病者合計	陽性轉化數ニ對スル發病率
		陽性轉化數	發見セル發病數	調査件數	發病數	調査件數	發病數		
吉原	108	26	7	17	0	11	0	7	26.9%
洲崎	171	51	13	33	5	25	0	18	35.3%
新宿	47	15	3	10	0	5	0	3	20.0%
計	326	92	23	60	5	41	0	28	30.4%

2. 就業後半年以上 1 ケ年以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病

第 6 表 就業後半ケ年乃至 1 年以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病

遊廓名	調査件數	就業後 1 ケ年ニ於ケル陽性轉化ト同時ニ發見セル陽性轉化數		陽性轉化後半年ニ於ケル發病數		陽性轉化後 1 年ニ於ケル發病數		發病者合計	陽性轉化數ニ對スル發病率
		陽性轉化數	發見セル發病數	調査件數	發病數	調査件數	發病數		
吉原	72	22	3	8	1		未檢	4	18.2%
洲崎	102	33	6	24	0		„	6	18.2%
新宿	27	8	2	2	0		„	2	25.0%
計	201	63	11	34	1		„	12	19.0%

第 3 章 2 節ニ述ベタル陽性轉化者 63 名ニ就キ前節ニ述ベタル方法ニ從ヒ發病ヲ檢シタル結果ハ第 6 表ノ如クデア、本表ニ於テモ陽性轉化

後半年ニ於テ發見シタル發病ヲ收録シタ、尙陽性轉化後 1 年ノモノハ未ダソノ時期ニ到達セズ未檢デア。

3. 就業後 1 年以上 1 ケ年半以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病

第 3 章 3 節ニ述ベタル陽性轉化者 22 名ニ就キ上述ノ方法ニ依リ發病ヲ檢シタル結果ハ第 7 表

ノ如クデア、陽性轉化後半年及ビ 1 年ノ檢索ハ未ダ時期ニ達セザルニ依リ檢セズ。

第 7 表 就業後 1 年乃至 1 ケ年半以内ニ於ケル陽性轉化者ノ發病

遊廓名	調査件數	就業後 1 年	陽性轉化ト同時ニ於ケル陽性發見セル	陽性轉化後半年ニ於ケル發病數	陽性轉化後 1 年ニ於ケル發病率	發病數合計	陽性轉化數ニ對スル發病率
		ケル陽性轉化數	發見セル發病數	調査件數	發病數		
吉原	32	6	4	未檢	未檢	4	66.7%
洲崎	69	15	2	2	13.3%
新宿	13	1	0	0	0
計	114	22	6	6	27.3%

4. 陽性轉化ト發病ノ期間的關係

第 3 章 竝ニ本章ニ於テハ陽性轉化セリザシモノニ就テ每半年後ニ陽性轉化竝ニ發病ヲ檢シ、得タル結果ヲ收録セシモノニシテ陽性轉化ト發病

トノ時期ノ關係ニ於テ一括スレバ第 8 表ガ得ラレル。前章乃至本章第 5、6、7、8 表ヲ通覽スルニ就業

第 8 表 陽性轉化ト發病ノ期間的關係

遊廓名	調査件數	陽性轉化數	陽性轉化發見ト同時ニ於ケル發病數	陽性轉化發見後半年ニ於ケル發病數	陽性轉化發見後 1 年ニ於ケル發病數	發病者合計	陽性轉化數ニ對スル發病率
			調査件數	發病數	調査件數		
吉原	108	54	14	25	11	15	27.8%
洲崎	171	99	21	57	25	26	26.3%
新宿	47	24	5	12	5	5	20.8%
計	326	177	40	94	41	46	26.0%

當初陰性ナリシモノ 326 名中半年以内ニ於テ 92 名ノ陽性轉化者ヲ出シ、其後ノ半年ニ於テ 63 名更ニ第 3 ノ半年ニ於テ 22 名ノ陽性轉化者ヲ發見シタ(第 2 ノ半年ニ於テ事故ノ爲檢査不能ナリシモノ 33 名第 3 ノ半年ニ於テ同様 2 名及ビ檢査時期ニ達セザルモノ 22 名アリ)即チ就業當初結核反應陰性ナリシモノ 326 名中ヨリ 1 ケ年半ノ間ニ 177 名ノ陽性轉化者ヲ發見シタルデア。

第 8 表ニ就テ觀察スルニ 177 名ノ陽性轉化發見ト同時ニ發病ヲ認メタルモノ 40 名ニシテ、陽性

轉化發見後半年目ニ發病ヲ見出シタルモノ 6 名(但シ、陽性轉化發見時ニ於テ發病ヲ認メザリシモノノ中、檢査シ得タルモノ 94 名中)合計 46 名ノ發病者ヲ算シタ、即チ檢査シ得タル發病者ハ發見シタル陽性轉化者ニ對シテ大凡 26%ニ及ンダ。

竝ニ特異ナル事實ハ 46 名ノ發病者中 40 名マデガ陽性轉化ト同時ニ發病ヲ發見セシモノニシテ而モ殘餘 6 名ハ陽性轉化發見後半年以内ノ發病ニ屬シ、陽性轉化發見後半年以上 1 年以内ノ發病ハ 41 名觀察中 1 例モナカツタコトデア。

此ノ事實ハ、結核病ノ發生ハ陽性轉化ノ直後(大體ニ於テ半年以内)デアリ、又陽性轉化發見後半年ニ於テ發病ヲ檢出シタモノニアリテハ、陽性

轉化ト發病ノ時期ノ間隔ガ最大限ニ於テ1ケ年ノ可能性ガ考ヘラル、モ、斯カル例ハ極メテ少數デアルト考ヘラル。

5. 發病者ノ病類ト發病發見時期ノ關係

前節ニ於テ發見セラレタル陽性轉化後ノ發病者46名ヲX線寫眞所見ニ依ル病類ト發病ノ時期

ヲ示セバ第9表ノ如クデアル。

即チ發病者46名中肺門淋巴腺腫脹ハ17名ニ及

第 9 表 陽性轉化ト發病ノ時期ノ關係

發 病 ノ 時 期	陽性轉化發見ト同時ニ發病ヲ認メシモノ				陽性轉化發見後半ニ於テ發病ヲ認メシモノ			合計
	陽性轉化ノ時期	半年	1年	1年半	計	半年	1年	
病類別								
肺門淋巴腺腫脹	9	4	3	16	1	0	1	17
初期變化群	6	4	2	12	0	0	0	12
肺浸潤	4	1	0	5	1	0	1	6
濕性肋膜炎	2	0	0	2	3	0	3	5
肺門淋巴腺腫脹兼濕性肋膜炎	2	0	0	2	0	1	1	3
肺浸潤兼腹膜炎	0	1	0	1	0	0	0	1
粟粒結核症兼腹膜炎	0	1	0	1	0	0	0	1
粟粒結核症	0	0	1	1	0	0	0	1
合計	23	11	6	40	5	1	6	46

ビ、初期變化群12名ニ次ギ、肺浸潤6名、濕性肋膜炎5名及ビ其他ノ順序デアル。既ニ述ベタル如ク之等46名ノ發病者中40名ハ陽性轉化シ發病ヲ發見セルモノニシテ、殘餘6名ハ陽性轉化半年ニ於ケル發見デアルガ、此ノ6名中4名

マデガ濕性肋膜炎デアリ、更ニ濕性肋膜炎ヲ呈セルモノノ中約半数ガ陽性轉化後半ケ年ニ發病ヲ認メラレタル事實ハ、濕性肋膜炎ガ少クトモ初期變化群、肺門淋巴腺腫脹等ノ病變ヨリ遅レテ發生スルコトヲ物語ルモノト考ヘラル。

第 5 章 陽性轉化ニ依ル發病者ノ觀察

1. 發病者ノ個人別病症ト其ノ經過

前章ニ述ベタル陽性轉化後ノ發病者46名ヲ病類別ニ區別シテソノ疾病竝ニ發病發見後半年及

ビ1年ノ經過ヲ表示スレバ第10表ノ如クデアル。

2. 發病發見後半年及1年ニ於ケル經過

第10表ニ見ラレル疾病ノ經過ヲ治癒、消退、同様増悪ニ大別シテ經過ヲ觀察スレバ第11表ガ得ラレル。

本表ニ於テハ癈業、住替等ニ依リ經過ヲ觀察シ得ザリシモノハ不明ノ欄ニ記載シ、半年又ハ1年ノ檢索時期ニ到達セザリシモノハ未檢ノ欄ニ記入シタ。

先ヅ肺内淋巴腺腫脹ノ經過ヲ觀察スルニ半年後ニ於テ6名ハ病機消退シ、同様ナルモノ1名増悪セルモノ4名デアリ、1ケ年後ニ於テハ治癒セルモノ2名ニシテ治癒ノ傾向甚ダ大デアル。初期變化群ノモノニ就テハ、消退セルモノ半年ニ於テ4名1年ニ於テ2名、増悪セルモノ半年1年各2名デアル、此ノ増悪セルモノハ總テ肺

第10表 發病者ノ個人別病症ト其ノ經過

検査番號	姓名	發病年齡	陽性轉化時期	發病時ノ病狀			半年後ニ於ケケル經過			1年後ニ於ケケル經過			
				X線所見ニ依ル病名	自覺症狀	赤血球沈降速度	X線所見ニ依ル病名	自覺症狀	赤血球沈降速度	X線所見ニ依ル病名	自覺症狀	赤血球沈降速度	
洲崎 11	■■■■	20	6ヶ月以内	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	61 1時間値 77 2時間値	消褪、肺浸潤消褪、淋巴腺腫脹縮小	ナシ	14 1時間値 35 2時間値	消	褪	1時間値 35 2時間値 65	
" 12	■■■■	24	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	95 1時間値 104 2時間値	不明	替					
" 18	■■■■	24	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	87 1時間値 87 2時間値	増悪 肺門部淋巴腺腫脹	中	アリ				
" 139	■■■■	22	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	3 1時間値 12 2時間値	消褪、肺浸潤ノミ消褪	消褪	ナシ	38 1時間値 51 2時間値	不明	業	
" 142	■■■■	22	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	19 1時間値 52 2時間値	増悪、肺浸潤進展、淋巴腺腫脹擴大	増悪	アリ	51 1時間値 77 2時間値	増悪、右肺空洞形成	アリ 休養中	1時間値 143 2時間値 146
" 151	■■■■	22	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	16 1時間値 45 2時間値	消褪、肺浸潤消褪、淋巴腺腫脹縮小	消褪	ナシ	32 1時間値 55 2時間値	消	褪	1時間値 10 2時間値 21
吉原 14	■■■■	21	"	左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	98 1時間値 98 2時間値	未	檢					
" 99	■■■■	20	"	右肺門部淋巴腺腫脹	アリ	17 1時間値 39 2時間値	未	檢					
" 100	■■■■	20	"	右肺門部淋巴腺腫脹	アリ	74 1時間値 102 2時間値	未	檢					
新宿 44	■■■■	23	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	9 1時間値 22 2時間値	未	檢					
吉原 44	■■■■	21	"	左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	57 1時間値 91 2時間値	未	檢					
洲崎 143	■■■■	24	"	左鎖骨下浸潤、右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	13 1時間値 35 2時間値	消褪、肺浸潤消褪、淋巴腺腫脹縮小、縦膈變肋膜炎發生	消褪、肺浸潤消褪、淋巴腺腫脹縮小、縦膈變肋膜炎發生	ナシ	19 1時間値 43 2時間値	増悪、右下葉浸潤發生、右濕性肋膜炎	アリ 休養中	1時間値 105 2時間値 128
" 31	■■■■	21	"	右肺門部淋巴腺腫脹	アリ	24 1時間値 14 2時間値	増悪、右肺門部浸潤	増悪、右肺門部浸潤	アリ	94 1時間値 118 2時間値	未	檢	
" 96	■■■■	28	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	5 1時間値 63 2時間値	消	褪	ナシ	32 1時間値 32 2時間値	治	褪	1時間値 6 2時間値 16
" 150	■■■■	23	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	44 1時間値 63 2時間値	不明	業					
" 167	■■■■	21	"	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	40 1時間値 77 2時間値	未	檢					

吉原 1	21	・	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	7 23	消褪、淋巴腺腫脹縮小 縦隔膜肋膜炎經過	ナシ	1時間値 2時間値	消	褪	ナシ	1時間値 2時間値	9 21
" 34	25	・	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	31 62	消褪、腫脹縮小	ナシ	1時間値 2時間値	18 44	癒	ナシ	1時間値 2時間値	36 62
" 36	21	・	右肺門部淋巴腺腫脹 右氣管枝側淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	48 75	不明腎臟炎併發休養中	ナシ	1時間値 2時間値	死	亡			
新宿 24	19	・	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	／	同様、稍々消褪カ?	ナシ	1時間値 2時間値	／	未	檢		
吉原 36	21	・	右肺門部淋巴腺腫脹 淋毒性關節炎	アリ 休養中	1時間値 2時間値	31 67	未	檢	1時間値 2時間値	／				
洲崎 141	21	1ヶ月 以内	右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	23 50	増悪、右下葉浸潤、 左濕性肋膜炎經過	アリ	1時間値 2時間値	45 65	未	檢		
" 157	23	6ヶ月 以内	左肺門部淋巴腺腫脹 左濕性肋膜炎經過	ナシ	1時間値 2時間値	11 34	消褪、肋膜炎治癒	ナシ	1時間値 2時間値	22 44	未	檢		
吉原 22	25		左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	17 ／	未	檢	1時間値 2時間値	／				
" 29	20		右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	90 100	増悪左肺浸潤 { 上下葉 病変 } 濕性肋膜炎經過	アリ 休養中	1時間値 2時間値	95 125	未	檢		
新宿 35	25		左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	／	消褪、淋巴腺腫脹縮小	ナシ	1時間値 2時間値	20 53	未	檢		
" 38	19	・	左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	／	増悪左濕性肋膜炎併發	アリ 休養中	1時間値 2時間値	91 130	未	檢		
" 41	20	・	左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	11 28	未	檢	1時間値 2時間値	10 48	未	檢		
吉原 77	20	・	右肺門部淋巴腺腫脹	アリ	1時間値 2時間値	／	消褪、淋巴腺腫脹縮小	ナシ	1時間値 2時間値	10 48	未	檢		
洲崎 22	20	・	右肺浸潤	ナシ	1時間値 2時間値	35 ／	不明 廢業	ナシ	1時間値 2時間値	／				
" 148	20	・	右肺尖部結核形 (空)	ナシ	1時間値 2時間値	29 73	同	アリ	1時間値 2時間値	41 71	死	亡		
" 16	20	・	左鎖骨下浸潤 (空)	不明	1時間値 2時間値	76 83	増悪、歸郷休養中	アリ	1時間値 2時間値	／	増悪、歸郷休養中	アリ	1時間値 2時間値	／
" 94	20	1ヶ月 以内	左鎖骨下浸潤 氣	アリ	1時間値 2時間値	14 ／	不明 廢業	ナシ	1時間値 2時間値	／				
吉原 8	22	6ヶ月 以内	左鎖骨下浸潤	アリ 休養中	1時間値 2時間値	63 102	増悪、歸郷休養中	アリ	1時間値 2時間値	／	増悪、歸郷休養中	アリ	1時間値 2時間値	／
" 39	19	・	左下葉浸潤	ナシ	1時間値 2時間値	17 44	同	ナシ	1時間値 2時間値	5 20	増悪、兩肺尖部 ニ轉移、下葉空 洞形成	ナシ	1時間値 2時間値	30 68

洲崎	20	1ヶ年以内	右濕性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	56 79	治癒	癒	ナシ	1時間値 2時間値	55 75 111	治癒(健康)	ナシ	11 34
9	27	1ヶ年以内	右濕性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	16	消褪、滲出液吸收	癒	ナシ	1時間値 2時間値	75 111	未檢	ナシ	
100	26	6ヶ月以内	右濕性肋膜炎(恢復期)	ナシ	1時間値 2時間値	13	治癒	癒	ナシ	1時間値 2時間値	79	治癒(健康)	ナシ	11 33
138	21	1ヶ年以内	右濕性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	13	消褪	癒	ナシ	1時間値 2時間値	46 68	未檢	ナシ	
2	23	1ヶ年以内	右濕性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	20	不明	替	ナシ					
13	20	6ヶ月以内	右肺門部淋巴腺腫脹	不明	1時間値 2時間値	40	不明	替	ナシ					
吉原	20		右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	56	不明	替	ナシ					
4	20		右肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	73	増悪、腫脹縮小、右滲出液吸收、左濕性肋膜炎併發	癒	ナシ	1時間値 2時間値		消褪、右治癒、左滲出液吸收	ナシ	62
52	20	1ヶ年以内	左肺門部淋巴腺腫脹	ナシ	1時間値 2時間値	118	未	癒	ナシ					
洲崎	20	6ヶ月以内	左下葉浸潤	ナシ	1時間値 2時間値	35	不明	業	ナシ					
19	23		粟粒性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	64	不明	業	ナシ					
123	23		粟粒性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	64	不明	業	ナシ					
			粟粒性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	150	不明	業	ナシ					
			粟粒性肋膜炎	ナシ	1時間値 2時間値	155	不明	業	ナシ					

第 11 表 發病者ノ病類ト半年後ニ於ケル經過

發病後ノ期間 病類	半年後ニ於ケル經過					1年後ニ於ケル經過								
	治癒	消褪	同様	増悪	不明	未檢	計	治癒	消褪	同様	増悪	不明	未檢	計
肺門淋巴腺腫脹	0	6	1	4	2	4	17	2	1	0	0	2	12	17
初期變化群	0	4	0	2	1	5	12	0	2	0	2	2	6	12
肺浸潤	0	0	2	2	2	0	6	0	0	0	0	2	0	6
濕性肋膜炎	2	2	0	0	1	0	5	2	0	0	0	1	2	5
肺門淋巴腺腫脹	0	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	1	1	3
肺浸潤兼濕性肋膜炎	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1
粟粒性肋膜炎兼肺結核	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
粟粒性肋膜炎	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1
合 計	2	12	3	10	8	11	46	4	4	0	6	9	23	46

..1名死亡

浸潤病竈ヨリ擴大セルモノデアツタ。

次ニ肺浸潤ノモノハ治癒或ヒハ消退セルモノ1名モナク、同様ナルモノ半年ニ於テ2名1年ニ於テ4名ニシテ、即チ肺浸潤ト診斷セシモノハ豫後全ク不良ニシテ、本調査中既ニ1名ノ死亡者ガアツタ。

第6章 總括的考察

1. 以上述ベタ所ニ依レバ、先ヅ娼妓ニ於テハ半年ケ年毎ニ約30%ノ陽性轉化が見ラレ1年半ニシテソノ半數以上ガ陽性轉化シ、而シテ此ノ陽性轉化者ノ發病率ハ約26%ニ及ブコトガ明カトナツタ。乍然之等發病者ハ必ズシモ自覺症狀ヲ有スルモノニ非ズシテ、ソノ自覺症狀ヲ有セシモノハ46名中17名ニスギナカツタ。而モ之等自覺症狀ヲ有セザリシ發病者中、肺門淋巴腺腫脹及ビ初期變化群並ニ濕性肋膜炎等ニ屬スルモノハ大多數自然治癒ノ傾向が見ラレタ。

2. 本論文中ニ於テ最モ重要ナル發見ハ第一ニX線所見ガ兩極性病影即チ初期變化群ノ形デアルニシロ、又ハ肺浸潤ノ形デアルニシロ、何レニシテモ肺ニ病變ノ現ハレタモノハ豫後ガ不良ノ場合多ク、之一反シテ肺ニ病竈ノ見エナカツタ初期變化群即チ肺門淋巴腺腫脹ノミノ場合ハ豫後ノ良好ナコトデアル。

此ノ事實ハ陽性轉化検査ノ重要ナコトト同時ニ陽性轉化時ニ速カニX線検査ヲ行ヒ肺ニ病竈ノ見エルモノハ直チニ對策ヲ講ジナケレバナラヌコトヲ切實ニ示唆スルモノデアル。

第二ニ之等陽性轉化ニ依ル發病者ノ大部ガ陽性轉化後半年以内ニX線所見上發病が見ラレテ、半年以上1ケ年及ビソレ以後ニ於テ發病スルモノガ全クナキ事實デアル。此ノ事實ハ結核豫防並ニ治療ノ根本問題ニ最モ重要ナル資料ヲ提供スルモノト確信スル。

從來結核病學者中ニハ、結核ノ發病ハ幼少年期ニ結核菌ガ侵入シ、之ガ年數ヲ經過シタル後身體ノ抵抗力弱キ時ニ發病ヲ惹起スルトノ説ヲナスモノガ多數デアツタガ、余等ノ得タル紋上ノ

次ニ濕性肋膜炎ニ於テハ5名中半ケ年ニ於テ既ニ2名ノ治癒者並ニ2名ノ消退者ガアリ一般ニ濕性肋膜炎自身ノ經過ハ非常ニ良好デアツタ。尙診斷上發病トセザリシモノノ中ニ濕性肋膜炎ヲ經過セリトノ痕跡アリタルモノ3名アリタルハ益々此ノ事實ヲ裏書スルモノト考ヘラレル。

事實ハ此ノ見解ト全ク相反スルモノデアツテ、即チ結核病ノ發生ハ陽性轉化直後ニ既ニ萌芽スルモノト提唱シタイ。

乍然一度萌芽セル疾病ガ個人ノ之ニ對スル不用意ナル生活方針(自覺症狀ナキ場合)或ヒハ發病發見後ノ治療ノ方針等ニ依ツテ一進一退シ、非常ニ長期ノ經過ヲトル場合ノ多キコトモ想像セラル、コト勿論デアル。

3. 第10表中ニ示シタ個人的病症中、赤血球沈降速度ノ値ヲ仔細ニ觀察スルトキハ概ネ相當高キ値ヲ示シ、而モ此ノ値ガ病症ノ進退ト共ニ必ズシモ消長シナイコトニ氣ヅキ尙報告中ニ示サナカツタガ未發病者ノ赤血球沈降速度ガ結核性疾患ナキニモ拘ハラズ、甚ダシク高値ヲ示スモノガ多カツタ。之等ノ事實ハ恐ラク被檢娼妓ノ多數ガ婦人科ノ諸炎症性疾患ヲ有セシコトニ起因スル結果ト想像セラレル、一般ニ婦人ノ結核診斷ニ際シテ赤血球沈降速度ノ値ヲ診斷上ノ參考トスル場合ニ十分ナル考慮ヲ要スルコトヲ示唆スルモノト考ヘラレル。

4. 本研究中被檢娼妓ニシテ陽性轉化後ノ經過ヲ觀察スルニ當リ、多數ノ廢業者又ハ不參者ガアリ研究ニ困難ヲ極メタ、之等ニ對スル確實ナル調査ハ終了シテキナイガ大多數ハ陽性轉化後ノ發病ニ依リ體力上業態ニ堪ヘザル爲淘汰セララル、コトヲ想像セシムル。

之等陽性轉化後ノ廢業、轉化、休業等ノ多數ハ第1報第5章後半ニ述ベタ、一般娼妓ノ就業年限増加ニ於ケル場合ノ陽性度ガ、却ツテ著シク増加ヲ示メサザリシ現象ヲ説明スルニ足ル。

5. 一般ニ娼妓ノ如キ接客業ヲ營ムモノノ生活

様式ハ、常識上所謂保健生活トハ全く相反スル事ハ周知ノ通りデアル。斯クノ如キ業態者ニ結核患者ノ發生ハ當然豫想セラレル所デアルガ、余等ハ生活様式ノミガ結核症發生ヲ大ナラシムルモノト考ヘナイ、本論文ニ於テ明カナルガ如ク結核病ノ發生ハ陽性轉化ニ伴ヒ比較的早期ニ惹起スルモノトスレバ、一面ニハ陽性轉化ノ機會ニ於ケル菌ノ感染狀況如何、即チ濃厚ナル感染ナリヤ否ヤニ影響セラレルコトガ相當多イト考ヘラル。

尙陽性轉化者 177 名中 46 名ノ發病者アリタル事實ハ一見シテ發病者ノ多數ナリシコトヲ語ルモ、逆ニ娼妓ノ如キ不衛生生活ヲ續クルモノニシテ尙確實ニ 74 名以上ノ未發病者アリシコト、並ニ發病セル者 46 名中ニモ自覺症狀ナク自然消退者或ヒハ自然治癒者モ多數アリタル事實ハ紋上ノ信念ヲ一層深カラシムルモノデアル。

6. 警視廳ニ於テハ毎週定期ニ健康診斷ヲ行ヒ花柳病ハ勿論結核、「トラホーム」等ノ傳染病ニ就テハ入念ノ検査ヲ行ヒ、苟クモ傳染ノ虞ト

ル場合ハ之ガ從業ヲ禁止シテキル。而モ本報告ヨリ推論シ得ルガ如ク娼妓ノ如キ業態ニ於テハ、少クトモ肺浸潤ヲ伴フ發病者ハ體力上業務ニ堪ヘザルモノニシテ娼妓ノ結核症ガ直チニ遊客ニ感染ヲ惹起セシムル場合ハ非常ニ稀デアルガ、逆ニ娼妓ガ遊客ヨリ受クル結核感染ノ慘害ハ十分ナル注意ガ喚起サレナケレバナラナイ。

7. 本論文ニ於ケル娼妓ノ陽性轉化ト發病ニ關スル觀察ハ單ニ娼妓ナル特別ナル業態者ニ限ラズ、他ノ一般ノ接客業者(藝妓、酌婦、女給、飲食店女中、又ハ百貨店等ノ従業員)並ニ工場労働者等比較的的非衛生的傾向ニアル生活ニ就テ全く同様ニ類推出來ルト考ヘラル。

尙陽性轉化ト發病ニ關スル從來ノ報告ハ、寺島、太田ノ看護婦ニ於ケル若干ノ知見ト、又結核菌ノ浸入ト發病ノ期間ニ就テハ Heimbeck ガ多少ノ言及ヲナセル以外ニ他一見ルベキ業績ヲ聞カナイ。今後社會ノ各層ニ於テ同様ノ研究ガ行ハレ一般ニ結核症ノ早期發見ト、之ニ對スル對策ノ考究セラレンコトヲ切望スル。

第 7 章 結 論

1. 警視廳管下ニ於ケル娼妓ノ就業當初ニ於ケル「ツベルクリン」皮内反應陰性ナリシモノ 326 名ニ就キ陽性轉化ヲ檢シ、半年乃至 1 年半後ニ於テ 177 名ノ陽性轉化者ヲ發見シ、之等ノモノノ發病監視ト發病後ノ病症ノ變化トヲ觀察シタ。

2. 警視廳管下ニ於ケル娼妓ハ半年毎ニ約 30%ノ陽性轉化ガ見ラレ、發病者ハ陽性轉化者ノ大約 26%デアツタ。

3. 陽性轉化ヨリ發病マデノ期間ハ大體ニ於テ半年以内ニシテ 1 年ヲ超ユルモノハナカッタ。即チ結核症ノ發生ハ結核菌侵入後比較的早期ニ萌芽スルモノト考ヘラル。

文

- 1) 寺島正一、看護婦ニ於ケル「ツベルクリン」反應ノ推移ト結核性疾患ニ就テノ臨牀的「レントゲン」學的觀察(結核、第 11 卷、昭和 8 年)。 2) 太

4. 發病者ノ中肺ニ病變ノ見ラレナカツタモノハ比較的豫後良好ニシテ、肺ニ病變ノ現ハレタルモノハ比較的的不良デアツタ。

5. 陽性轉化ノ發見トソノ比較的直後ニ於ケル X 線ニ依ル早期ノ診療ハ結核豫防上重大ナ意義ヲ有スル。

附記 稿ヲ撰クニ當リ本研究ニ多大ノ便宜ヲ與ヘラレタル、吉原、洲崎、新宿、品川各病院長、醫長並ニ醫局員ニ敬意ヲ表ス。

尙本研究ノ當初ニ於テ警視廳衛生技師堀内捷醫學士ガ協同勞作ニ當リタルヤ中途ニ於テ名譽ノ召集ニ接シ中断スルノ止ムナキニ至リタルヲ記シ其ノ勞ヲ謝ス。

獻

- 田良海、昭和 12 年結核病學會抄録。 3) Heimbeck, Centralblatt für Tbk-forschung(1938)。